平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	尾道市立栗原小学校

1　学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校は，学校給食単独調理方式（市内統一献立）の実施校である。平成２６年度より栄養教諭配置校となり，取組を進めている。組織的な推進体制の確立と共感的人間関係づくりを通して，健康の保持増進に対する主体的な態度を育み，望ましい食習慣の形成を目指して取組を進めている。

2　学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

「健康の保持増進につながる食生活の在り方を学び，自らの生活に生かすことのできる子供の育成」

◆望ましい食習慣を身につける

◆健康と食生活の関わりを理解し，健康を考えた食べ方ができる

◆自然の恵みや作る人たちへの感謝の気持ちを持つことができる

（成果指標・目標値）　成果指標；給食の残菜率・目標値；２％以下の日を 90％以上

県の成果指標		目標値（%）
1	主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べている児童の割合	70
2	食事の準備や片付けの手伝いをしている児童の割合	80
3	地場産物を知っているか（記入有り）	100
4	郷土料理を知っているか（記入有り）	100

3　食育の目標に対する具体的な取組

【取組１】（テーマ）食に関する指導；①　給食時　②　教科等　③　個別的な相談指導

① 給食時における食に関する指導

【日常活動における環境整備】

・給食係（各学級）や給食委員会が主体的に日常的な活動ができる資料を毎月配布した。(給食献立紹介・放送資料等)

・担任が常時，指導に活用できる資料の提供（掲示資料）

【担任と栄養教諭等による TT 指導】

・栄養教諭の学級訪問時（年２回全学級）及びランチルーム給食時（年５回程度）に計画的に実施し，全国学校給食週間（三学期）には，給食調理員の話を聞く機会を設定した。

② 教科等における食に関する指導

・年間計画に沿った指導内容に，児童の理解が深まるよう給食とのつながりを持たせた教材を準備した。

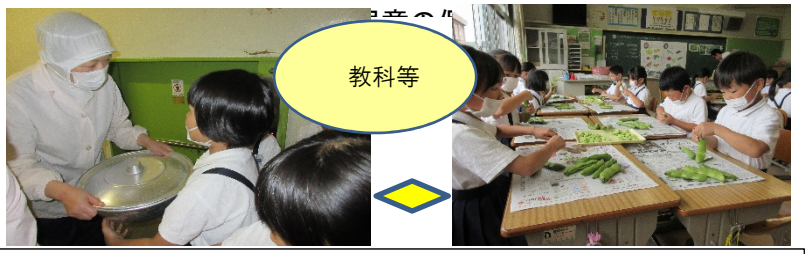
③ 個別的な相談指導

給食時

担任と栄養教諭による給食時の食に関する指導

給食時の給食係の活動
「献立の紹介」と「食べ物クイズ」

教科等



学級活動（2年）
「食べ物の旬を知り，給食のお手伝いをしよう」 そら豆のさやむきをして給食室へ届けました。

【取組２】（テーマ）学校給食の管理；①　栄養管理　②　衛生管理

① 栄養管理

・栄養教諭による学級訪問や残菜計量（毎日），給食調べ（毎月；給食委員会実施）と栄養教諭による担任への聞き取りも併せて行い，実態把握と情報交換を行った。

・料理のおいしさ・彩り・食感をよりよくするため作業改善及び標準化を目指し，児童・教職員の声を聞きながら，残菜量の減少に取り組んだ。

・地場産物の活用や魅力ある献立の工夫（セレクト・お祝い給食等）を行った。

② 衛生管理

・施設等の不備は即時，管理職より教育委員会へ連絡，改善の手立てが講じられるよう連携した。保健所の食品衛生監視員の助言も得られた。

・給食室での毎日のミーティング（朝会・反省会）や衛生管理視察研修会場として指導を受ける機会を作業改善につなげた。

・担任の給食時における指導においても，危機管理マニュアルの周知により，統一的な管理（異物混入・食物アレルギー対応・点検票等）を行った。

調理の工夫（野菜の手切り→かみ応え Up）

衛生管理視察研修
（尾道市学校保健会学校栄養士部会）

【取組３】（テーマ）　教職員，家庭や地域との連携・調整

【教職員】・職員の役割分担を明確にし，異学年交流給食に取り組んだ。児童に役割を持たせ，気持ちのよい食事の場づくりが楽しい交流につながる体験から，社会性を育む活動として定着しつつある。さらに，今年度より縦割り班掃除を始め，「６年生を送る会」の行事では，縦割り給食＆遊び（給食・掃除・遊び・感謝の集いの一連の流れ）を児童会企画で行った。

・栄養教諭による他校指導（TT 指導）に取り組んだ。長江小学校では全学年に４時限の授業と給食時の指導，栗原中学校では３年生保健授業と給食時の見学を，いずれも食育担当者との連携・調整のもとに行った。

【家庭】・食に関する実態調査（児童）や PTA 給食参観・試食会・懇談会や親子料理教室の実施，「にこにこ元気の達人」の取組や食育指導のワークシート調理実習の課題など家庭と学校の双方向性のある内容の工夫を行った。

【地域】・今年度初めて，給食試食会・懇談会への民生児童委員の参加を得て，学校における給食・食育への理解を得ると共に，保護者との交流の機会ともなった。地場産物の生産者とも地場産物の活用のための連携を行うことができた。

異学年交流給食

給食試食会･懇談会

PTA 親子料理教室

家庭で実践（ワークシート･カード）

調理実習の復習	「にこにこ元気の達人カード」
・実習した料理を家庭でつくる計画を立てる ・工夫したところや自分の振り返りを書く ・おうちの人からひとこと感想を書いてもらう	・毎月１週間取り組む ・体力作り・外遊び・生活目標を自分で設定 ・おうちの人から応援メッセージを書いてもらう

＜保護者の感想＞

・親子でつくる機会ができ，とても楽しかった。

・家でもつくってみようという気持ちになった。

４　「ひろしま給食１００万食プロジェクト」の取組について

（１）職員研修の実施
　・ねらいや方法の確認を行った。
（２）家庭への情報発信
　・県教委や市教委からの配布物及び食育だよりを家庭に配布した。
（３）家庭・地域への働きかけ
　・PTA 親子料理教室のメニューに取り入れた。
　・栗原小 PTA バザーにおいて，試食の提供とレシピを配布した。
（４）「おうちで作って食べよう！」の呼びかけ
　・給食委員会で学級ごとの食数調査を行いつくレポ募集など全校に呼びかけた。

つくレポ募集

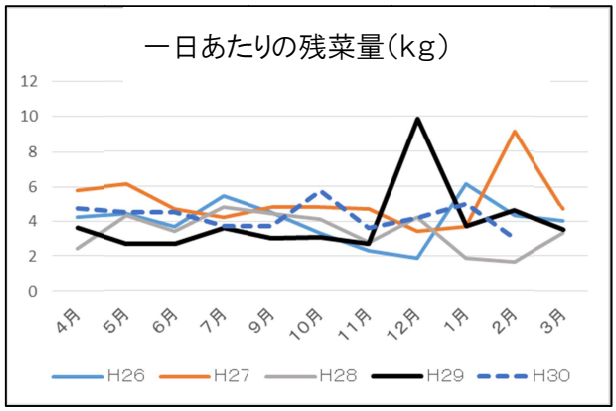
栗原小バザーでの試食コーナー

５　取組に対する成果と課題

【成果】

（１）給食を大切にする校内の雰囲気づくり

平成 26～30 年度の月別の一日当たりの残菜量は，この５年間において減少傾向にある。給食時間の給食係（各学級）の活動をもとに担任が統一感のある給食指導を行うと共に，給食委員が毎月行う「給食調べ（残菜及び給食のきまりについて）」での呼びかけなど，教諭から児童へ，児童から児童へと日頃の取組が定着しつつあり，落ち着いた給食時間の過ごし方につながっている。



給食室では，学校給食衛生管理基準のもとに作業改善を図ることで，ドライ運用と魅力ある給食づくりに意欲的に取り組むことができた。給食委員会が行う「感謝の集い」では，全学級から感謝のメッセージ（ひとりひとこと）が給食室の先生に贈られ，児童が思いを届ける場となった。児童から給食室の先生に感謝の思いを直接伝えられる単独調理方式のよさと言える。ランチルーム給食時に児童と一緒に食べる機会を持つ等相互理解の場の設定し，そのよさを広げていきたい。

全国学校給食週間「感謝の集い」

（２）児童の望ましい食習慣の育成

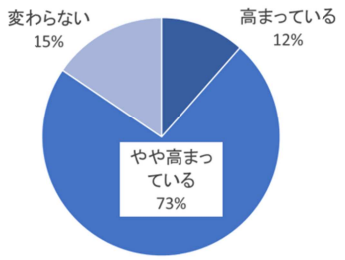
食習慣の形成については，給食時や教科等における食に関する指導により県の重点目標の項目においてつぎのとおりの結果であった。

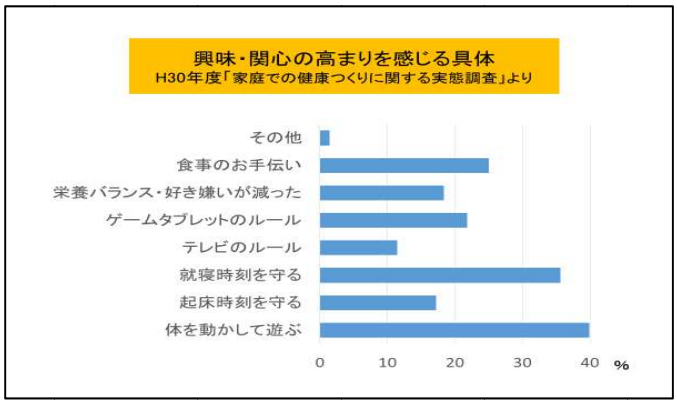
H30 年度　県の成果指標（５学年対象）		H30 目標値（%）	本校（%）
1	主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べている児童の割合	70	64
2	食事の準備や片付けの手伝いをしている児童の割合	80	83
3	地場産物を知っているか（記入有り）	100	88
4	郷土料理を知っているか（記入有り）	100	88

（３）家庭における健康づくり

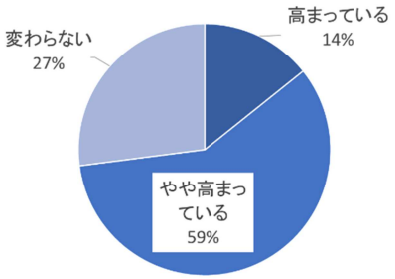
家庭の食に対する意識については，「家庭での健康づくりに関する調査（12 月実施）」において「健康づくりに対する子供の興味関心の高まり」「保護者自身の意識の変化」を尋ねた。いずれも肯定的評価として「高まっている」が子供の興味・関心では 85%，保護者自身では 73%という結果であった。保護者の具体や理由の記述の一番に「食材・栄養について話す・工夫する」が挙がっており，子供が学校で学んだことを家庭で話している様子が伺えた。

健康つくりに対する子供の興味・関心





子供の健康つくりに対する保護者自身の意識変化



具体・理由の記述	件数
食材・栄養について話す・工夫する	46
体力つくりを一緒にする	42
就寝時刻の声かけ	39
ｹﾞｰﾑ・ﾀﾌﾞﾚｯﾄの時間の声かけ，ルール決め	34
体力つくりの声かけ	14
テレビの時間の声かけ	12
時間やきまり全般の声かけ	11
食事の準備に関わらせる	11
時間やきまりその他全般の声かけ	11

本校は，今年度「広島県学校給食表彰」をいただくことができた。学校全体で取り組んできた学校給食と食育の充実をさらに発展できるよう，新学習指導要領の趣旨を踏まえ，「チームで取り組む食育推進の PDCA」（文部科学省）を指針にその方策を検討する。

【課題】

（１）校内における食育推進体制の更なる充実と統一感ある指導の定着

（２）児童の望ましい食習慣を身に付けるための主体的な活動を促す取組の充実

（３）家庭における実践力の向上に繋がる取組の継続と個に応じた働きかけ

６　今後の取組に向けた改善方策について

（１）目標と PDCA サイクルに基づく業務を明確に示し，職員間の連携・役割分担・結果の共有など共通理解の場を増やす。（特に，担任による給食時の食に関する指導（指導資料の活用方法）の在り方や栄養教諭のかかわり方）

（２）異年齢交流活動の位置づけやねらい・内容を検討する。

（３）生活習慣の定着を目指した取組の目標に食に関する項目（お手伝い）を取り入れる。